令和２年度　臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：障害者歯科治療部

第３期中期目標･中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。(塗りつぶし可)

□１．口腔領域における新規組織再生・再建法の開発
□２．高齢者の特性に配慮した口腔疾患の予防法・診断法・治療法の開発
□３．顎口腔機能の維持増進に関する研究
□４．歯科医学臨床教育の質保証に関する研究
■５．その他

研究期間：2018 年～2023 年

研究課題名：歯科スプリントのチックに対する影響評価

研究課題の概要及び成果：チックは原因不明で，本人の意思と関係なく突然，体が動いたり声が出たりすることが一定期間続く障害である．障害者歯科治療部には，チックのある患者が多く来院し，その多くは自傷やブラキシズムあるいは顎関節症のため歯科スプリントによる治療を行っている．これまでの臨床において，歯科スプリントを装着することで，チックそのものが軽減する現象が複数人において観察されている．

本研究では，歯科スプリントを装着したチックのある患者において，装着前後のチックの程度を自記式のチェックシートで評価し，歯科スプリントがチック症状の改善に貢献するか否かを検討した．

対象者は 22 名で 7 から 27 歳であり，男女比は 16:6 であった．患者の約 64%でチック減少をみとめた．全体を通し TSSR スコアは約 60%減少した．チック減少について性差はなかったが，若年者ほど運動チックが減少する傾向をみとめた．スプリント装着によりチックが悪化した者については，スプリントの使用を中止することで元の状態まで回復した．また重篤な副作用はみとめられなかった．（Mov Disord. 2019;34:1577-8.）また，チックの客観評価，QOL 調査をさらにすすめ，歯科スプリントの広範な効果を確認している．

上記概要・成果に関連する図表等

図　歯科スプリントの例

当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のＢＯＸのいずれかにチェックを付してください。(塗りつぶし可)

□　関連がある
■　関連はない